

Social medical corporation hokuto

★広報誌★

ほくと7

seven

77
VOL.

7月号

<http://www.hokuto7.or.jp>

患者さんの
あらゆる問題に
向き合って
診療を行います

特集

総合診療

診療科紹介 総合診療科

昨年四月より複数医師体制となり、一年を迎えた総合診療科の紹介をさせていただきます。

総合診療科の定義は難しく、医療機関・医療圏によって担う役割が各々異なるのが現状です。現在当科では在宅・緩和部門、一般外来部門、救急部門を中心に診療にあたっています。

いずれの場面においても患者さまを積極的に受け入れ、それぞれのニーズに応じた、満足頂ける確かな診療を常に心がけています。

診療を受けられる患者さまはもちろんですが、医療従事者の方々からの信頼も得て、さらに幅広い対応に努めてまいりますので、今後とも宜しく願います。

北斗病院 総合診療科 副部長
石橋 和也

園芸療法12ヵ月 11



十勝自立支援センター 園芸療法士
介護老人保健施設 かけはし **劔持 卓也**

植物のある環境や植物を育てることを用いて、対象となる方々の心身機能維持、回復に取り組む。日本園芸療法学会認定・専門認定登録園芸療法士。

老健かけはしBlog(ブログ)
園芸療法の取り組みやかけはしのイベント情報等、随時更新。ぜひご覧ください。



7月「夏の空に揺れる」

かけはしの建物には500㎡を超える広さの植栽スペースがあります。2階の広い畑にはさまざまな野菜を、屋上や各階の花壇にはたくさんのお花を植えています。7月は、昨年植えた宿根草が次々に花を咲かせ、5月から6月にかけて植えた一年草や野菜がぐんぐんと大きく育ち、収穫が始まる月です。今年植えた野菜の中で最も早く収穫できたのはズッキーニでした。園芸療法プログラムに参加される皆さんと一緒に種まきや苗の植え付けをしました。もちろん、収穫も一緒に行います。ご高齢の方にとってズッキーニはなじみの薄いものですが、「こんなふうになるんだね」と実のつき方に関心を示され、調理をする際も「どんな風に料理をしたらおいしいんだろうね」と、興味を持っておられる方が多くいらっしゃいました。採れたてのズッキーニはとても瑞々しく、薄く輪切りにしたものをフライパンで油炒めにさせていただきます。

包丁を握ったり、フライパンを振ったりするのは久しぶりの方が多くいますが、身体はしっかりと覚えていて、表情もきりと引き締まっています。次はどの野菜が採れるだろうか、どのようにして頂こうか、できあがった料理を食べながらそんな話をしているとき、夏の空を背景にして、青々とした葉がひらひらと風に揺れています。

研修医日記 Vol.1

初期臨床研修医1年目
東 賢



大阪出身で、大学は広島。「北海道で働きたい!」そう思ってた北斗病院の研修医に応募したのが始まりで、4月からこちらの研修医として帯広の素敵な土地と優しい方々に囲まれながらのびのびと研修をさせていただいております。そんな私にはひとつ夢があります。それはいつか南極観測隊の医療隊員として日本人で最も南にいる医者となつて活躍することです。なかなか南極に行かれた人、南極関係者と出会う機会がないので、知り合いにおられる方はお知らせくださると嬉しいです。(笑)

帯広の夏は涼しいと聞いていますが、これから少しずつ暑くなってくると思いますが、皆さまくれぐれもご自愛ください。



リハビリ中の患者さんと
談笑する東先生



チューター／整形外科主任医長
中村 聡喜先生

※患者さまの許可を得て掲載しております

北斗病院総合診療科は広く・深くかわかります。 広く:救急・一般外来など多岐にわたる疾患。深く:専門治療、在宅から緩和医療まで。

総合診療科 副部長

石橋 和也

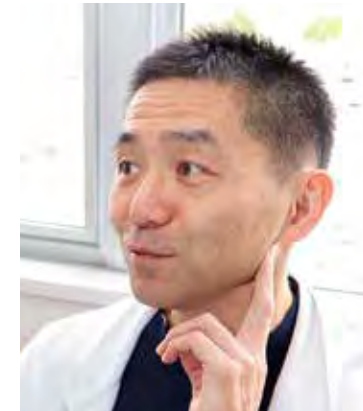
秋田大学医学部卒。
十和田市立中央病院を経て
2015年4月、北斗病院入職。
2019年4月より現職。
趣味は格闘技観戦。



総合診療科 医長

朝日 淳仁

北海道大学工学部卒。旭川医
科大学医学部卒。札幌徳洲会
病院、市立稚内病院、北見赤
十字病院等を経て2018年4月、北斗
病院入職。趣味はトライアスロン。



—総合診療科とはどのような診療科になるのでしょうか

〈朝日Dr〉 定義からは医療における診療科の1つで、特定の臓器・疾患に限定せずに多角的に診療を行うのが総合診療科となりますが…ぶっちゃけるとさまざまな患者さんを診させて頂く『何でもあり』の科になります。

—当院総合診療科の診療体制について教えてください

〈石橋Dr〉 今年で僕自身は入職5年目となりますが、これまで独り科に近い環境だったので総合診療科として求められる多くのことへの迅速な対応が難しく、皆さんに迷惑をかけてしていました。現在は複数医師体制となったことで診療に余裕もでき、各々の得意とする対象患者さんを担当しやすい環境が整ってきており、僕が在宅・緩和医療を、朝日先生が一般外来診療を中心として、入院・救急外来も分担して対応しています。

—具体的にはこういった患者さんを担当しているのでしょうか

〈石橋Dr〉 僕は在宅・緩和医療を必要とする患者さんを中心に診療しており、現在はノーステラス札内西町・緑ヶ丘の2施設約110名と、個人宅約20名の訪問診療を行っています。施設への訪問は日中ですが、個人宅は患者・家族さまの生活リズムに配慮して、夕方以降に伺うよう工夫しています。施設入居者さまは御高齢で既往も多く、日常的にさまざまな問題が発生します。その際も一律に医療機関搬送とは判断せず、患者・家族さまと都度相談し、全身状態・ニーズに応じ

た施設内での治療も選択肢の1つとしています。一方で個人宅への訪問はがん患者さんが中心のため、この1年間だけでも50名以上のお看取りを行いました。人生最期の時間を住み慣れた環境で、苦痛無く穏やかに過ごせたことへの喜びと感謝の言葉を多く頂いています。

〈朝日Dr〉 私は一般外来診療を中心に患者さんを診させて頂いております。月曜から木曜の北斗クリニック外来診療の他、木曜午後・金曜午前は広尾国保病院で外来診療を行わせて頂いております。『総合診療』ですので対象疾患は多岐に及びますので、的確な診断をつけるために採血や画像検査は必須となります。PET検査をいち早く取り入れ、CTやMRI検査も迅速に行える北斗はうってつけの病院と言えます。専門的な治療が100%行える訳ではありませんが、高血圧・脂質異常症・高尿酸血症などの生活習慣病、肺炎・気管支炎・尿路感染症などの各感染症、糖尿病・甲状腺機能亢進症などの内分泌疾患、数は少ないですがリウマチ関連疾患や血管炎、悪性疾患の治療・フォローアップもさせて頂いております。

—それぞれ大変なことはなんでしょう

〈朝日Dr〉 守備範囲が広い点です。科としての守備範囲もそうですが、広い敷地内にある北

斗ではクリニック外来、救急外来、病棟、手術室までは距離があり常にハイスピードの行動になります。それなりにキャリアは積んでいるつもりですが、かけ足行動することが多く、周りからは落ち着きのないおじさんに思われています…(笑)。

〈石橋Dr〉 休暇に関して心配されることが多いです。僕が担う在宅・緩和医療は患者・家族さまとの信頼関係のうえに成り立つので、基本的に替えがきかない仕事と考えています。「連絡がつかない、不在で訪問診療ができない」ということが無いように心がけて生活しており、その結果ここ数年帯広を24時間以上離れることがありませんでした…あ、充実した毎日を過ごしており、『決して』不満はありません(笑)。

むしろ、落ち着きのないおじさん(朝日Dr)の行動に慣れることが一番大変でした、しかし最近やっと操縦マニュアルが完成し、今後ますます仲良くやれそうと感じています(笑)。

—最後に今後の抱負をお願いします

〈朝日Dr〉 色々な患者さんを診させて頂けるのでうれしい反面、プレッシャーもあります。一人でも多くの患者さんに元気になって頂けるような診療・治療を心がけますので、今後ともよろしくお願い致します。

〈石橋Dr〉 在宅・緩和医療も浸透し、人生の最期を自然な環境で苦痛無く過ごせる患者さんが増えてきたと実感しています。しかし一方で、病状進行やその他要因により環境が整わず、望まれている最期が叶わない症例も経験します。速やかな紹介を頂けるよう、信頼のある在宅・緩和医療の提供をこれからも目指しますので、今後ともよろしくお願い致します。

—ありがとうございました



『回復期リハビリテーション医療のあり方』 総合医療・家庭医療の視点から」堀哲也先生で講演

十勝リハビリテーションセンター 副院長 佐土根 朗

2019年2月5日、帯広協会病院総合診療科責任医長堀哲也先生にご講演をいただきました。堀先生は、9年前、北斗病院で前期研修を履修された、ばりばりの家庭医療専門医（家庭医と略）です。この度、ご講演をお願いした真意は、もう一度、家庭医の視点から医療全般を振り返る時期に来ていると感じるからです。彼の講演内容に触れる前に社会医療法人北斗の今までの歩みと私たちを取り巻く医療環境、医療ニーズの変化を概観してみましょう。

社会医療法人北斗の歩みと 医療ニーズの変化

1993年1月の開院以来、四半世紀。脳神経外科単科で始まった医療法人北斗、急性期から回復期、生活支援期である在宅医療まで、当初から一貫した体制で展開する垂直統合モデルは、今や十勝の地に根付いた存在となっています。開院当初、「脳外科ってなに？ いくつかあればいいの？」、病院自体はおろか、診療科自体も市民権を得ていない往時を記憶にとどめるスタッフも減っています。現在でこそ、各自治体病院へ自院の常勤医を派遣して外来等の診療支援をす

る事が当たり前となっていますが、これは、四半世紀近く前、当院が嚆矢となって始めた事業形態です。いわば、北斗の歩みは、地域包括ケアシステムの先取りと言えます。その視点でここ数年の北斗の事業展開を見ると、地域への窓口拡大を目指した水平展開がみられます。上士幌クリニックや新得クリニックを拠点とした地域集約型の医療介護福祉の統合は、その一端といえます。開院当初の設立理念として、病院を「病気になったらかかる」単なる医療施設としてではなく、予防医学に基づく、neath of allに一般に関わる重要な社会資源（IHS Integrated healthcare system）として位置づけました。

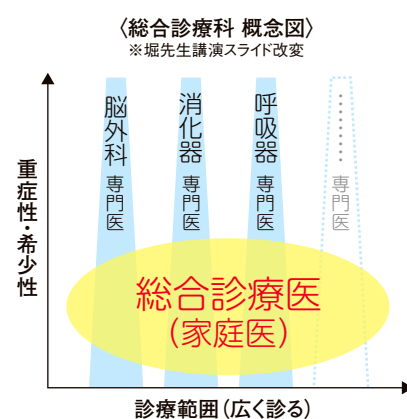
垂直統合と水平展開で地域完結型の枠は引かれたわけですが、これからは、枠の中の升を埋めるとり組みが必要です。この一翼を担う為、回復期および生活期の支援拠点として、十勝リハビリテーションセンターが、5年前に開設されました。

以上が社会医療法人北斗の今までの事業展開のあらましです。この時代、別な視点で振り返ると、私たちに求められる医療ニーズが激変した時代ともいえます。少子高齢化、疾患の多様化、独居老人に代表される住環境の変化等々。開院当初の様に早期に病気を見つけ、診断し治療する、という疾患ベースでの2次予防、3次予防では対抗できない事例が増えました。病は癒えても、自立した生活の再建が困難な場合に遭遇する事が多くなったわけですが、医療の社会化、介護の社会化と言われる現象です。単に疾患の治療だけでなく、患者本人と本人の生活、それを取り巻く家族、地域コミュニティまでをも包括して考える必要が生じています。今回、次世代を担う家

庭医療のトップランナー堀先生を招聘した理由がそこにあります。

総合医療・家庭医療の視点

今年から新専門医制度がスタート、基本領域として19番目に総合診療専門医（家庭医療専門医）が加わります。他の多くの専門医は個々の臓器別疾患の治療を専門とする臓器別医療のスペシャリストです。それに反して家庭医は疾患の8割を占めると言われる通常の病気の治療医であるだけでなく、病気を抱える患者、その人固有の問題をもとに考える理解者でもあります。臓器別医療を縦糸とするなら、家庭医療は横糸といえるかもしれません。



その為、従来の医療（医学モデル）とは、異なる視点、異なる思考方法で医療のみならず社会全体を捉えています（社会学的モデル）。その一端を堀先生のご講演から、三つの基本軸で説明します。

①病気だけでなく、病いを診よう
狭心症は冠動脈の動脈硬化が直接の原因、冠動脈の血管形成をすれば病気としての治療は終了です。もし喫煙者であれば禁煙は重要な問題、禁煙意識の高さや喫煙している理由など病気に関わるさまざまな問題を病いとして診る立場も必要です。いわば患者本人の内的環境としての病気の成因と外的環境としての家庭、社会、国家の問題を大きな枠で捉えようというものです。空間的包括性とも言えるこの概念を、生物心理社会モデルというそうです。

②患者中心の医療

遺伝子レベルでの多様性を除けば、全ての病気は医学的には共通です。それに対して病いに陥った患者の心のあり方、その後の立ち居振る舞いは、それぞれ異なります。いわば病気が同じでも病識病感は一異なり、その違いがその後の治療効果や医療者、家族との関係性にも影響を及ぼします。私たちはそれぞれの物語を生きているといわれますが、病いもまた重要な登場人物？だと言えます。個々の患者

の人生を物語という時間軸ととらえる視点です。

③関係性の視点を大切に

臓器別医療の場合は、病気の治癒が治療の終了点であり、医療者との関係性にもひとまず、ピリオドが打たれます。その点では、家庭医は、無限軌道の上のトロツコに患者と一緒に相乗した様なものです。①や②で述べた空間軸、時間軸の上を進むにつれ、患者との関係性も多様に変化します。この変化に無頓着でいると、関係性に歪みが生じる場合があります（パターンリズムや事務的対応など）。

終わりに

以上の三つの軸は、あくまで医療現場での視点ですが、家庭医は、私たちを取り巻く社会のあり方にも視野を広げています。例えば、医療の持つ、社会保障的側面と市場経済的側面の2面性の問題です。医療も経済活動である為、市場原理と無関係ではありません。反面、健康な最低限の生活を保障する社会保障としての側面は、市場経済と切り離

して考える必要があります。医療資源に限りがある為、高齢者医療における多剤処方のように、時に両者は相矛盾した結果を生じる事があります。科学技術の進歩により増大する医療活動と公的保険と税収入で支えられた先細りする社会保障としての医療、戦後日本は医療の大衆化といえる国民皆保険制度をいち早く確立しました。私たちに突きつけられている矛盾は、新たな価値観を求めています。生活者の視点で当院開設時の理念である、社会資源としての医療を再構築する必要があると思います。価値観は、現状への洞察と未来への思考に基づきます。今回、堀先生がご講演で述べられた三つの視点は、国民皆保険制度創設間もない戦後の献身的な医療者が、暗黙の内に秘めていた眼差しを思い出します。今後、堀先生ら家庭医が日本の医療風土の中で、経済的最適性に見合う新たな社会的価値を生み出す事が期待されます。私たちにとっては、十勝が家庭医療のメッカになる為に、何をなすべきか、模索すべき時です。

特別寄稿

回復期リハ、地域包括ケア病床に期待すること

医療法人 北海道家庭医療学センター 理事
社会福祉法人 北海道社会事業協会 帯広病院
総合診療 責任医長 堀 哲也

① 地域包括ケア病棟と
回復期リハビリテーション病棟

2016年4月に帯広協会病院で新たに総合診療科を立ち上げて、今年で4年目になります。帯広協会病院では、2016年度に全病床数300床のうち48床を地域包括ケア病棟へと転換し、私は、病棟責任者として運営に携わっています。

地域包括ケア病棟は、厚生労働省が推進する地域包括ケア構想の一環として、2014年度の診療報酬改定時に新たな入院医療管理料を算定できるようになった病棟の形式です。特徴としては、在宅復帰率、リハビリテーションの提供、人員配置などの一定の条件を満たせば、急性期から回復期まで幅広い入院診療の対応が可能となります。地域包括ケア病棟協会（仲井雄会長）が提唱する役割としては4つあり、

① 地域の訪問診療や施設ケアを

かかりつけ薬局や歯科医院との連携にも視野を広げる必要があると思います。

④ 認知症について

今後さらなる増加が見込まれる認知症の患者ケアは、回復期における大きな課題だと考えています。私は、認知症サポート医の一人として積極的に認知症の診療を行っています。認知症患者のケアは、これからの回復期ケアの将来を大きく左右する問題だと思っています。認知症患者のケアは、その対応の難しさから医療者を疲弊させることも多く、ネガティブな印象を持っている人も少なくないと思います。しかし、今後より増加することが、ほぼ確実とされており、認知症を避けて通ることはできません。誰もが通る加齢のステージのひとつとして、認知症と共に未来を創造する視点が、これからの回復期ケアには強く求められています。そこで、ユマニチュードなどを取り入れて認知症患者のケアを見直すことも重要ですが、それ以前に認知症患者に対する考え方を、リハビリテ



受けている患者の急性期治療を行うサブアキュート機能

② 急性期治療後の継続治療やリハビリテーションを行うボストアキュート機能

③ 自宅や介護施設への退院に際して、必要な介護サービスの調整等を行う在宅復帰支援機能として、

④ 介護者の負担軽減などを目的としたレスパイト入院などを行う周辺機能とされています。

一方、回復期リハビリテーション病棟は、主に脳卒中や骨折などで急性期治療を受けた後の患者に対して集中的なリハビリテーションを提供する目的で、2000年度より制度化された病棟の形式です。2018年度の診療報酬改定では、リハビリテーションによる効果を評価する指数（リハビリテーション実

績指数）が導入され、それぞれの病棟の役割の違いが強調されるようになりつつありますが、現時点では、どちらの病棟も回復期のステージにある患者ケアを中心に、在宅復帰を支援する機能が求められている点は共通しています。

② 地域包括ケア構想と
総合診療科

これら一連の病棟機能の再編の動きは、少子高齢化に伴う医療ニーズの変化と適正な入院医療を提供するための医療政策である地域包括ケア構想に連動したものです。私たち総合診療医（家庭医）は、疾患だけではなく、家族や地域も含めた視点で医療を提供することを専門性の一つとして、日々の診療を行っています。そのような意味では、地域包括ケア病棟の運営や、在宅復帰を目指した回復期のステージの患者ケアは、私たち総合診療科に課せられた使命とも言えます。そこで、帯広・十勝地域において期待される回復期ステージにおける医療の役割を考えてみたいと思います。

③ 回復期ケアに求められるもの

まず、何らかの疾患で日常生活に支障が生じる障害を負った患者に対して、機能回復を目指したりリハビリテーションの必要性は言うまでもありませんが、加齢による変化を加味して、介護と連携した在宅復帰支援の必要性が増えています。そのためには、私たち医療者は、病院の中だけではなく地域の社会資源に目を向ける必要があります。帯広市の面積は、東京23区とほぼ同じであり、都市部で行われていることをそのまま模倣しても課題の解決は困難です。つまり、都市部と同じような目標設定や退院支援だけではなく、より早期からAdvance Care Planning（ACP）に基づく終末期を見据えた個別性の高いケアプランの検討と共有を行い、回復期ステージのケアを行っている病院や病棟は、地域の医療機関や介護事業所によりオープンな姿勢が求められていると思います。そこには、ポリファーマシー対策や摂食嚥下ケアの問題も含まれており、既存の地域の医療機関や介護事業所の連携に限らず、

感じています。この数年の地域包括ケア構想に基づく病棟再編の動きは、医療経済の視点からはピンチともなり得る変化であると同時に、私たち医療者が地域のためにできることを見出し、持続可能な社会を形成する仕組みづくりを創造するチャンスでもあります。私は、このチャンスを生かして、帯広・十勝地域における地域包括ケアシステム

構築の一翼を担いつつ、全国的なモデル地域のひとつとなることを通じて、帯広・十勝地域が、総合診療（家庭医療）の実践・教育の拠点となることを目指しています。そのためには、一人でも多くの方々に私たちの診療について知ってもらい、一緒に知恵を出し合いながら協働できる方法やシステムを模索していきたいと思っています。

シヨンの視点で捉え直すことがヒントになると思います。総合診療科では、国際生活機能分類（ICF）という考え方に基づくカンファレンスを、毎月1回リハビリ科のスタッフと一緒にを行っています。このICFの視点で考える際の重要なポイントとしては、失われた機能を取り戻すことにはばかり気を取られることなく、残されている機能や社会資源に目を向けて、生活機能を取り戻そうというところにあります。つまり、認知症の患者の残されている機能や、それまでの人生経験に焦点を当ててケアに生かすことが重要だと思っています。このICFの考え方は、総合診療医（家庭医）の診療と親和性が高く、生活を軸とした医療やリハビリテーションの架け橋になれるものだと思います。

⑤ モデル地域を目指して

私は、初期臨床研修の2年間を北斗病院で過ごしました。研修を通じて、「変化こそチャンス」という姿勢を肌身感じながら学び、そのスピリッツは今も私の中に脈々と流れていると

回復期リハビリ病床または地域包括ケア病床へ
転院をご希望の際は、ご相談ください

北斗病院 患者サポートセンター

TEL(0155)

47-3093
または 47-7500

FAX(0155)

47-3083

わたしたちが担当します!



北斗病院／地域包括ケア病床 50床
十勝リハビリテーションセンター／回復期リハビリ病床 169床



あなたの街にも北斗のお医者さん 出張外来予定表

当院医師が下記の地域の医療機関にて出張外来を行っております。

芽室／公立芽室病院 ☎(0155) 62-2811

- 耳鼻咽喉科 〈後藤 孝〉／毎週 **金曜日**／午前 9:15～
- 耳鼻咽喉科 〈上村 明寛〉／毎週 **木曜日**／午前 9:15～

池田／十勝いけだ地域医療センター ☎(015) 572-3181

- 整形外科 〈石田 直樹〉／第1・3・5 **火曜日**／午前 8:30～

上士幌／上士幌クリニック ☎(01564) 2-2010

- 脳神経外科 〈鎌田 一〉／通常第2**水曜日**／午前 9:00～
- 総合診療科 〈竹田 晴男〉／第2・4 **木曜日**／午前 9:00～

本別／本別町国民健康保険病院 ☎(0156) 22-2025

- 脳神経外科 〈前田 大介〉／第3 **水曜日**／午後 14:00～ ※8月より
- 整形外科 〈中村 聡喜〉／毎週 **水曜日**／午前 9:30～

鹿追／鹿追町国民健康保険病院 ☎(0156) 66-2031

- 脳神経内科 〈金藤 公人〉／第2 **月曜日**／午後 14:00～

清水／清水赤十字病院 ☎(0156) 62-2513

- 整形外科 〈土居 隆〉／第1・3・5**水曜日**／午後 13:00～
- 整形外科 〈清水 智〉／第2・4 **水曜日**／午後 13:00～

足寄／ホームケアクリニックあづま ☎(0156) 25-5050

- 脳神経外科 〈井出 渉〉／第2 **金曜日**／午後 13:00～

広尾／広尾町国民健康保険病院 ☎(01558) 2-3111

- 脳神経外科 〈鎌田 一〉／第2・4 **木曜日**／午前 9:00～
- 脳神経外科 〈佐土根 朗〉／第1・3 **火曜日**／午後 13:30～
- 循環器内科 〈赤津 智也〉／毎週 **金曜日**／午後 13:30～
- 整形外科 〈土居 隆〉／第2・4 **水曜日**／午後 14:00～
- 整形外科 〈清水 智〉／第1・3・5**水曜日**／午後 14:00～
- 耳鼻咽喉科 〈坂東 伸幸〉／毎週 **月曜日**(隔週交代)
- 耳鼻咽喉科 〈後藤 孝〉／午前 9:00～／午後 13:30～
- 消化器内科 〈河瀬 智哉〉／第2・4 **水曜日**／午前 9:00～
- 消化器内科 〈友田 博行〉／第1・3 **水曜日**／午後 13:30～
- 総合診療科/耳鼻咽喉科 〈朝日 淳仁〉／毎週 **木曜日**／午後 13:30～
- 総合診療科/耳鼻咽喉科 〈朝日 淳仁〉／毎週 **金曜日**／午前 9:00～

国民健康保険病院地方独立行

記念講演会



(左から)
広尾町国民健康保険病院理事長 鎌田 一
広尾町長 村瀬 優
広尾町国民健康保険病院
副理事長/院長 計良 基治

HOKUTONEWS

2019.06.01 in Hiroo

これから始まる〈新しい地域医療〉へ 北斗×広尾を目指すこと

地域連携推進部部長(兼) 久保田 亨
地方独立行政法人 広尾町国民健康保険病院 統括部長

広尾町国民健康保険病院(以下、広尾国保)は今年の4月に道内の公立病院では初となる地方独立行政法人に移行しました。これを記念し、6月1日に住民公開講座を開催しました。

大西えりも町長を含め、138名の方にご来場頂きました。村瀬町長から広尾国保に対し大いなる期待を寄せるご挨拶を頂戴し講演会がスタート。鎌田理事長が人口動態や、遺伝子診断・ICTの発展など技術革新がもたらす地域医療の将来の方向性について解説。北斗と広尾国保がこれらを基盤として協働していくことで、広尾町が今後、地域医療改革のモデル地域になっていく可能性について説明。計良院長はその示された方向性に沿って既に実践していること、今後取り組んでいく事について次のように紹介しました。

広尾国保は、全国に先駆けた地域医療・介護提供体制のモデル創りに取り組む方針を掲げ、①「地方の公立病院こそが、〈健康寿命〉延伸の最先端拠点たるべき」との考えの下、第二次予防医療及び介護予防/自立支援の拠点化、総合診療と高度専門医療の円滑な連携体制構築②「次世代の医療・介護従事者育成システム創りの為、十勝地域医療研究所」を開設。計良院長が教授を務める東都大(埼玉、千葉県)に、看護師を目指す広尾高生の為に推薦枠を設け、奨学金制度で支援する体制を用意。北斗所有の小型飛行機の活用による札幌や旭川からの医師等の移動負担緩和への挑戦。将来的に地域医療を担う総合診療医の養成を計画。③「地域完結型救急機能体制の整備」として、80km離れた帯広・広尾間において、地域医療を孤立させない為、既に北斗と電子カルテを共有しており、今後は救急画像連携システム、テレビ会議システムなどを用い物理的な距離を超え、更にコミュニケーションを円滑にする仕組みを構築していくことなど、これから取り組みを通じ、地域医療にイノベーションを起こしていきたいと、力強く語りました。

New Face

新着任医師のご紹介

放射線治療科 松本 健一 Matsumoto Kenichi

はじめまして。札幌医大2012年卒業で、この度放射線治療科に勤務となります。

一人ひとりの患者さまに寄り添った診療をしていきたいと思っております。何卒よろしくお願いいたします。

略歴
札幌医大卒業
札幌厚生病院、札幌医大、恵佑会札幌病院などを経て2019年7月北斗病院入職
日本医学放射線学会放射線科専門医



★ 北斗福祉村プロジェクト ★

2019年
8月
完成予定

北斗福祉村ガーデン(仮)

サービス付高齢者向け住宅「あやとり」、介護老人保健施設 かけはしの間に造成する北斗福祉村ガーデン(仮)。5月からの記録的な少雨による砂埃を考慮し、なかなか工事を進められずにやきもきしていましたが、ようやく重機を入れて工事がスタートしました。

まずは芝生を剥がして、表土の入れ替えを行います。入れ替え後いよいよ北斗福祉村ガーデン(仮)が造成されていきます。来月にはどんな変貌をとげているのでしょうか。



2019年5月23日撮影



2019年6月17日撮影



今年も始まりました。

花と緑の 街づくり運動2019

2017年度より帯広稲田地区で展開してきた同運動も今年で3回目となり、今回は老健かけはしの正面玄関脇に「香りの小道」を整備しました。あいにくの天気の中豊成小学校の児童らが記念式典に参加してくれました。

2019年6月22日撮影

お気軽にお問い合わせください

すべてのお問い合わせ ☎0155-48-8000〈北斗コールセンター〉



社会医療法人 北斗

北斗病院



■関連施設

北斗病院 (帯広市)
北斗クリニック (帯広市)
十勝リハビリテーションセンター (帯広市)
サービス付き高齢者向け住宅「あやとり」 (帯広市)
十勝自立支援センター介護老人保健施設「かけはし」 (帯広市)

ほくと自立支援ホーム/あおぞらクリニック (帯広市)
上士幌クリニック/介護老人保健施設かみしほろ (上士幌町)
新得クリニック (新得町)
熊谷総合病院 (埼玉県熊谷市)
HOKUTO画像診断センター (ロシア・ウラジオストク)
HOKUTOリハビリテーションセンター (ロシア・ウラジオストク)